



北斗句会

十二月定例会（四日 偕行社）

兼題「冬」「鍋」

五十音順

特は特選 石田きよし選

特 冬ごもり一の宝の尿瓶かな

大崎石州

堤防を越えて碎くる冬怒涛

太田黒幸風

玄関に寒さ被ひて上がりけり

大森康政

特 そと入るる湯婆に妻の細き足

竹内雲泉

雲浮かぶ海風ぎわたる小春かな

田中資凡

冬ざれや見返る猫の鋭き眼

長池豆陽

牛鍋をつつき昭和を偲びけり

深見十万

特 小春日や天の風きく風見鶏

藤田紀潮

冬天に聖堂二塔屹立す

宮下ひかる

冬ざれや龍飛岬の風の声

森田光彦

展望台三百段の落葉踏む

山縣秀雄

競技場のこけら落としの師走かな

吉岡誠山



夕間暮たましひ抜ける干大根

石田きよし